

学振特別研究生について

採用実績と現ポジション

当研究室では、博士後期課程に進学し博士の学位取得後に研究職に就きたい方を対象に、日本学術振興会特別研究員への申請を奨励し、申請書作成や計画立案へのサポートを行っています。

また、これまでの実績として下に示すように多くの採択者を出し、特別研究員の任期修了後に大学教員・研究員となる人材を輩出しています。

興味と意欲のある方はご相談ください。他学からの応募も相談に乗ります（下記のうち二名は他学出身者です）。

当研究室で採用された学振特別研究員の進路(敬称略)

[1] **DC1** (2000--2002) → **PD** (2003--2005) → 大阪大(工)・准教授、清野智史

[2] **DC2** (2005--2006) → 大阪府大(工)・助教→関西大学・准教授、木下卓也

[3] **DC2** (2006--2007) → 産業技術総合研究所・博士研究員→KEK(PF)・助教、仁谷浩明

[4] **DC2** (2010--2011) → 物質材料研究機構・博士研究員→産業技術総合研究所・研究員、平山悠介

[5] **PD** (2012—任期途中で任用) → 大阪大(工)・助教、大久保雄司

[6] **DC2**(2015—2016) パナソニック、岡崎倫久

(以上、2018年10月現在)

以上に加え、

PD(2005)採択決定時に某大学に就職が決まっていたため辞退した方（現某大学・准教授）1名、
DC1(2014)採択決定後に民間企業に就職するため辞退した方1名、
がいらっしゃいます。

特別研究員の制度や **PD**・**DC2**・**DC1** の区別については、

<http://www.jsps.go.jp/j-pd/index.html> をご覧下さい。